

## 第8回中部電力原子力安全向上会議アドバイザリーボード 議事要旨

1. 日 時：2018年1月23日（火）9時00分～11時00分
2. 場 所：中部電力本店内会議室
3. 出席者：＜社外委員＞小林委員、服部委員、松下委員、横山委員、吉川委員  
＜社内委員＞勝野社長、増田副社長、松浦副社長、片岡副社長、倉田副社長  
三澤専務  
(経営考査室長、広報部長、原子力部長、グループ経営戦略本部部長等同席)

### 4. 議事要旨

「安全性向上に係る取り組み状況」「『原子力安全向上に向けた更なる取り組み』のロードマップ更新」を当社より説明。多岐に渡る議論がなされた。

社外委員からの主な意見は以下のとおり。

#### (1) 安全性向上に係る取り組み状況

- 工事完成後の図面でチェックを行う仕組みを設ける必要がある。チェックする仕組みができたなら、チェックした証拠をどう残すか、証拠をどう確認するかまで明確になっていないと、システムとしては不十分である。
- 原子力に関しては国が主体で物事を進めることが多いため、電気事業者には主体的に物事を進めようという意識が欠けているという指摘がたびたび聞こえてくる。今後の体制構築の際は、ぜひ電気事業者が主体となって取り組んでほしい。
- 浜岡原子力安全アドバイザリーボードでは、技術的な側面からさまざまなアドバイスが行われると思うが、それを受けて仕組みや制度を構築するだけではなく、現場の方々が高いプライドを持って安全管理を担っていく必要がある。
- どの業界においても、いま求められるリーダーシップは「役割遂行型リーダーシップ」と呼ばれるものであり、リーダーだけがリーダーシップをとるのではなく、それぞれ一人一人が専門や役割に応じてリーダーシップをとる必要がある。これを徹底すれば役割分担と責任が曖昧になるという点は解消されるため、今後のリーダーシップ教育に取り入れてはどうか。

#### (2) 「原子力安全向上に向けた更なる取り組み」のロードマップ更新

- PRAについては米国水準を目標とするとあるが、日本の場合、米国ではあまり想定されていない地震や津波、火山活動といった災害もあるため、事象に応じた最適な使い分けが必要である。
- PDCAサイクルを回すことによって、リスクマネジメントは向上する。日本人は計画を作ることに注力しがちであるが、むしろ重要なのは評価や見直しである。とりわけ、状況変化に応じて都度見直しをしていくことが必要である。
- 重要な情報を正しく認識することが重要である。非常時には、重要度を把握し、極端な話「一番重要なもの以外捨てる」くらいの覚悟が必要である。

以 上